

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査 能勢町の結果概要について

### 1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査実施日 令和5年4月18日（火）

※第9学年の英語「話すこと」に関する調査は、ICT端末を活用し、文部科学省 CBTシステム（MEXCBT）を用いたオンラインの音声録音方式で実施された。当日実施校と期間内実施校（4月19日（水）～5月26日（金））があり、本町の生徒は5月12日（金）に実施した。

### 3. 調査対象 能勢町立能勢ささゆり学園 第6学年及び第9学年

### 4. 調査事項及び内容

#### (1) 教科に関する調査

第6学年：「国語」「算数」

第9学年：「国語」「数学」「英語」

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

### 5. 能勢町の参加状況

▶ 第6学年実施児童数 41人

※集計対象児童数 全国；977,345人 大阪；70,277人

▶ 第9学年実施生徒数 51人

※集計対象生徒数 全国；923,981人 大阪；66,746人

### 6. 公表に当たって

- 本町は義務教育学校1校であるため、学力における調査結果の明確な数値による公表は行わない。
- 本調査により測定できるのは、学力や学習状況、生活状況の特定の一部であることに留意する必要がある。

## 7. 調査結果概要

### ①平均正答率の府・国との比較

※大阪府比・全国比は、±5ポイント未満は「同等」、5ポイント以上上回る場合は「上回る」、5ポイント以上下回る場合は「課題がある」と表記

区 分	第6学年	
	国 語	算 数
大阪府比	課題がある	課題がある
全 国 比	課題がある	課題がある

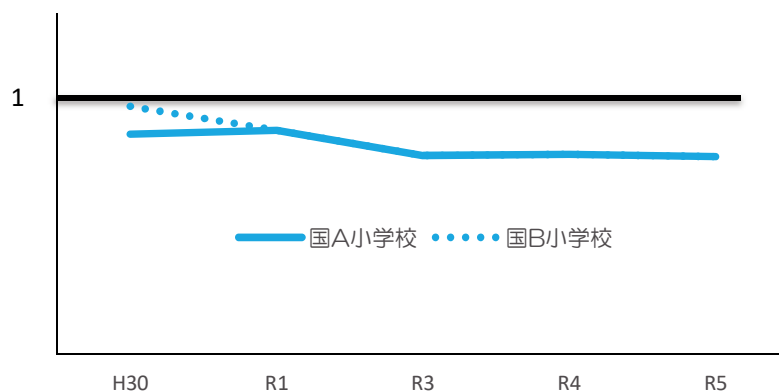
区 分	第9学年		
	国 語	数 学	英 語
大阪府比	同等	同等	同等
全 国 比	同等	同等	同等

### ②平均正答率の国との比較

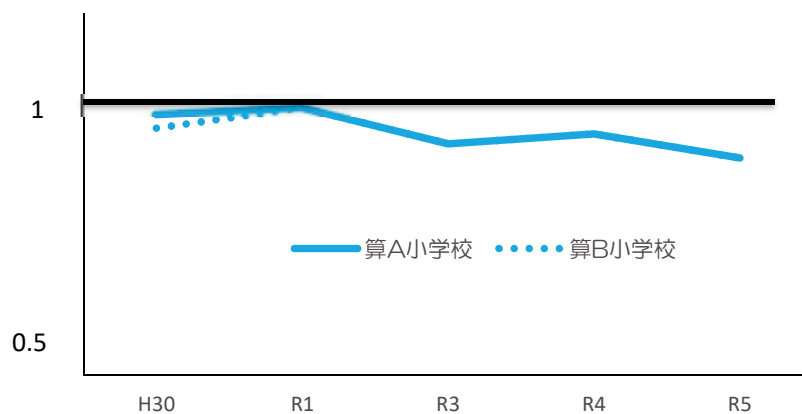
令和元年度より、国語、算数、数学においてA・Bの区分がなくなったため、A・Bそれぞれからの推移を標記した。

※全国の平均正答率を1としたときの本町各教科平均正答率の推移

#### ・第6学年 国語 経年変化



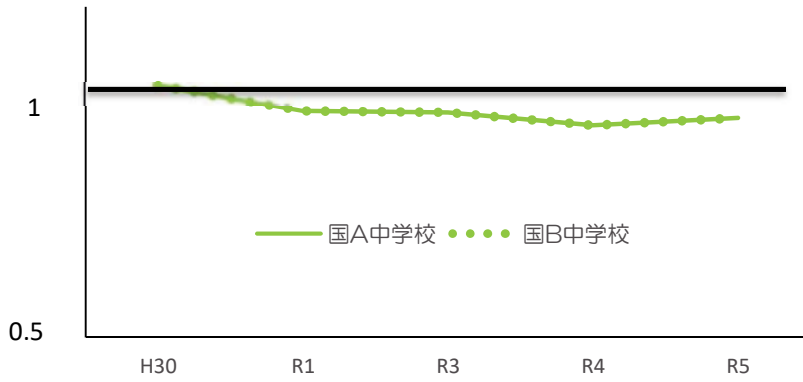
#### ・第6学年 算数 経年変化



#### 第6学年

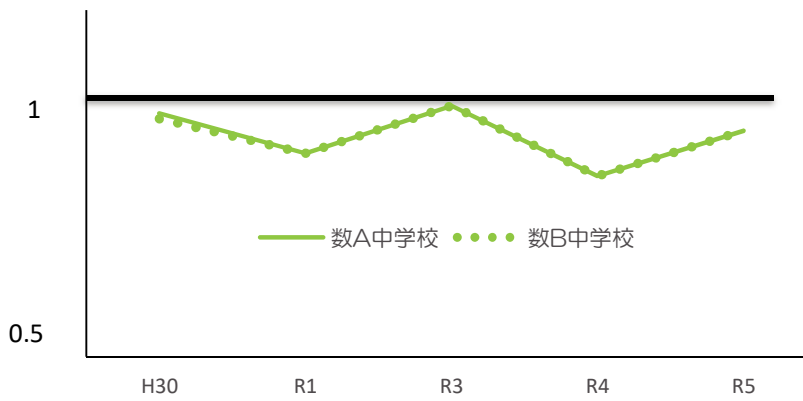
○国語・算数において  
全国平均に達していない。

・第9学年 国語 経年変化



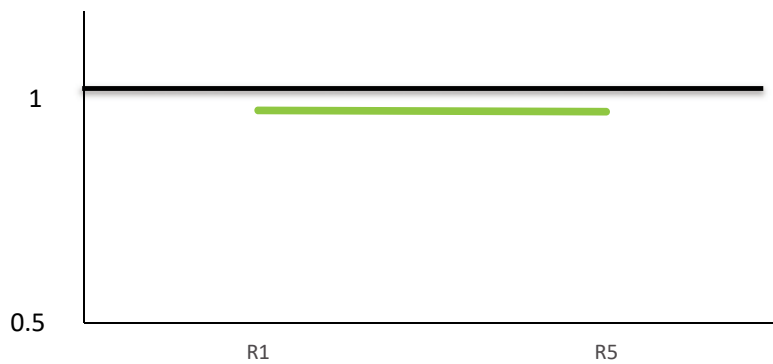
**第9学年**  
 ○国語・数学・英語において全国平均に達していない。  
 ○数学において、昨年度より全国平均に近い値であった。

・第9学年 数学 経年変化



・第9学年 英語 経年変化 (R元・R5に実施)

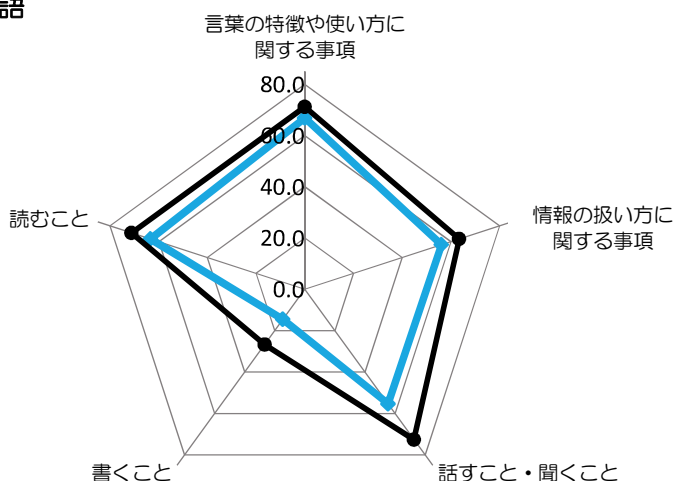
※「話すこと」調査の結果は含んでいない。



③国語における学習指導要領の内容の平均正答率の状況（％）

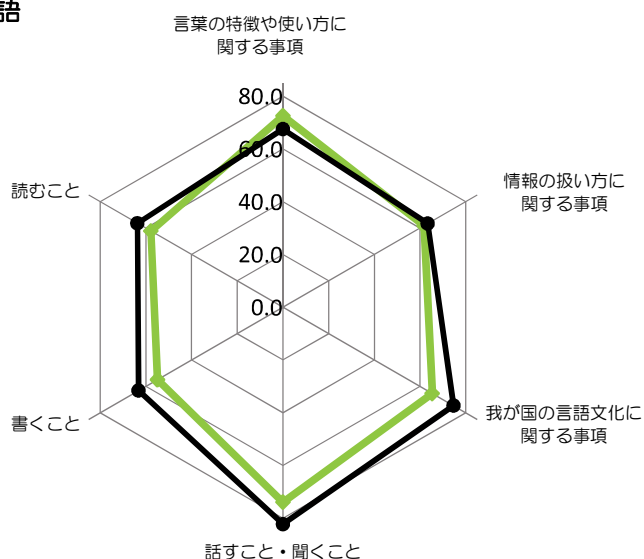
【 — ；能勢町第6学年、 — ；能勢町第9学年、 — ；全国】

・第6学年 国語



○全ての領域において全国平均を下回った。  
 ○「書くこと」において、12.1ポイント全国平均を下回った。この領域での出題は1題のみであり、図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫しながら、60～100文字以内で書く問題であった。  
 ○「話すこと・聞くこと」については、17.3ポイント全国平均を下回った。出題は3題あり、インタビューの様子を読み、適切な内容を選択したり、自分の考えをまとめて書く問題であった。

・第9学年 国語

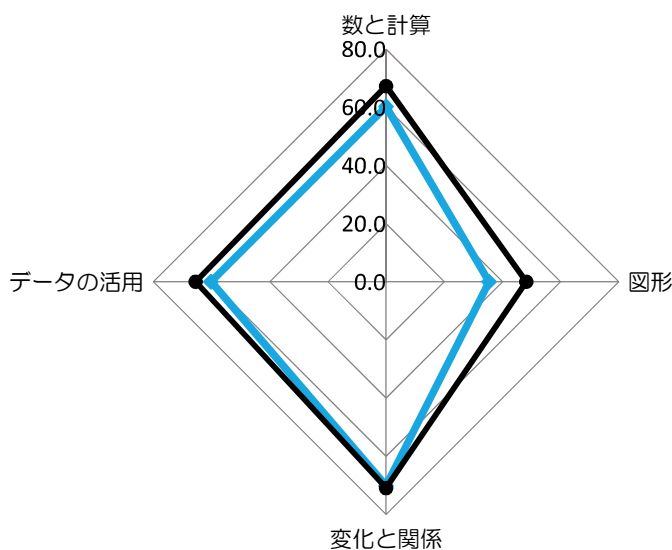


○「言葉の特徴や使い方に 関する事項」では、全国平均を5ポイント上回った。2問の出題があり、「落胆する」の意味を選択する問題と、ひらがなで書かれた「おし量って考える」の下線を漢字に直し、楷書で正しく書く問題であった。  
 ○「我が国の言語文化に 関する事項」、「書くこと」の領域では、自分の知識や経験に触れながら書く問題や根拠を明確にして書く問題において、正答率が全国平均を下回った。  
 ○「話すこと・聞くこと」においては、2問の出題のうち、自分の考えを書く問題においての正答率が70.6％（全国82.5％）であった。

④算数・数学における学習指導要領の領域の平均正答率の状況（％）

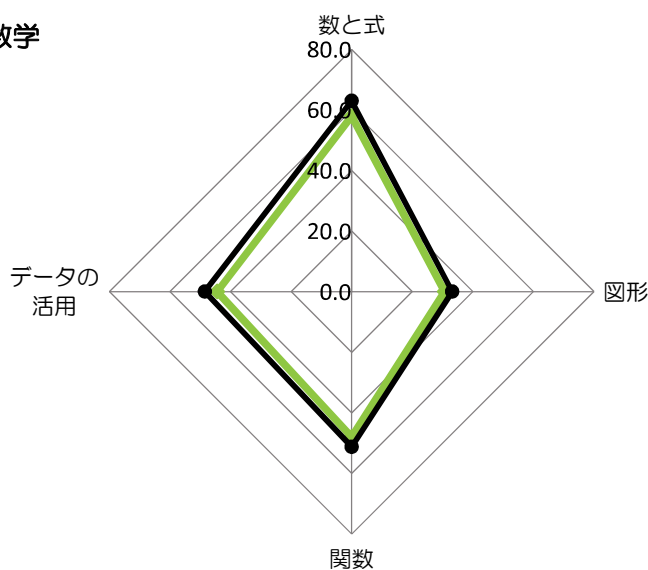
【 — ；能勢町第6学年、 — ；能勢町第9学年、 — ；全国】

・第6学年 算数



○全ての内容において全国平均を下回った。  
 ○「図形」の領域において全国平均を12.8ポイント下回った。台形・正方形・正三角形の意味や性質に関する問題や底辺と面積の関係を基に面積の大小を問う出題であった。

・第9学年 数学

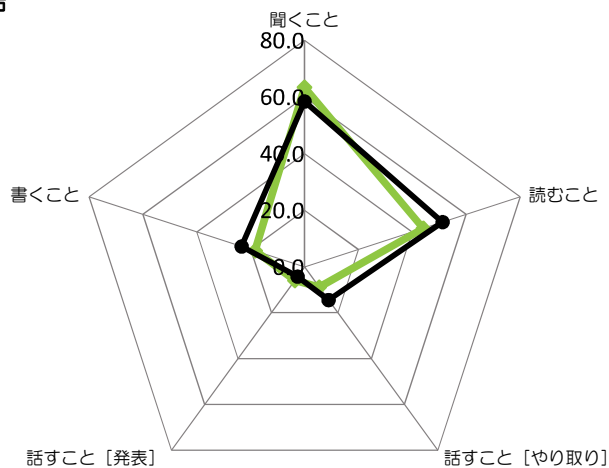


○全ての領域において全国平均をやや下回った。  
 ○その中で、全国平均との差が大きかったのは「数と式」の領域であった。問題別に見ると、その差は「 $12(x/4+y/6)$ 」を計算する問題で7.5ポイント、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題で11.7ポイントであった。

⑤英語における学習指導要領の領域の平均正答率の状況（％）

【 — ; 能勢町第9学年、 — ; 全国】

・第9学年 英語



※「話すこと」調査の全国の値は、当日実施・期間内実施の合算をした値であり、参考値として公表されている。

- 「聞くこと」の領域では、全国平均を5ポイント上回った。「読むこと」「書くこと」に関しては、全国平均を下回った。
- 「書くこと」の領域の出題において、自分の考えや学校生活の中から紹介したいものをまとめて英語で書くという問題において、全国平均を大きく下回った。
- 「話すこと [やり取り]」では、全国平均（参考値）を5.7ポイント下回った。「カンガルーが食べるものについて留学生に質問する」、「留学生の質問を受け、ソウの誕生日を伝える」等の出題であった。

⑥通過率（％）の状況

通過率とは、「全国学力・学習状況調査において全国平均正答率70%以上の問題について当該問題における自校の平均正答率が70%以上を通過とし、当該問題のうち、何問通過しているかを割合で表したもの」である。

	教科	R3	R4	R5	
第6学年	国語	43	75	43	（％）
	算数	88	66	71	
第9学年	国語	62	88	63	
	数学	83	25	100	
	英語	実施なし	実施なし	100	

○第6学年及び第9学年の国語において、全国平均正答率の高い問題に対する平均正答率が低い。

【参考】

ア. 第6学年 国語で通過することができなかった問題（4問／7問）

- ▶ 下線部ウを漢字を使って書き直す問題

ウ きかんは7月1日から15日までです。

〔正 答〕 期間

- ▶ 傍線部ア、イのように質問した理由として適切なものを選択する問題

3

答さんの学級では、学校ボランティアの人たちを全校にしようかいるために、自分の相手を決めてインタビューをしました。次は「答さんの考え」と「インタビューの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

**【答さんの考え】**

学校ボランティアの中で、登下校でお世話をしている見守りボランティアの方は、毎朝早くから大変そう。どうして続けているのだろう。私の通学路に立ってくださっている寺田さんと山本さんにインタビューをして、お二人の思いを聞いてみよう。

**【インタビューの様子】**

答さん： こんにちは。いつも私たちの登下校を見守ってください。ありがとうございます。今日は、お二人からお話を聞きたいので、どうぞよろしくお願いします。

寺田さん： 確かに朝早いのは大変です。でも、私は、子供たちに安全に登下校をしてほしいと思っています。

山本さん： 私は、最近この地域に住むようになり、見守りボランティアを始めました。慣れないうちは大変でしたが、今では元気をもらっています。

答さん： そうなのですね。元気をもらっているということについて、もう少し詳しく教えてください。

山本さん： 子供たちから、「いつも見守ってくれてありがとうございます。」と声をかけてもらうことがあり、そんなときは元気が出ます。町で出会った保護者の方が「いつもありがとうございます。」と言ってくれたこともあり、やりがいを感じています。

答さん： アやリがいというのは、ボランティアをやっていてよかったということだと思いますが、合っていますか。

山本さん： はい、そのとおりです。ボランティアをやって本出によかったと思っています。子供たちの安全を守るために、役に立っていると感じられるので、大変さよりもやりがいのほうが大きいです。

答さん： なるほど。そうなのですね。

寺田さん： 私も子供たちが安全に登下校している様子を見るときはうれしくなり、やりがいを感じます。子供たちのすてきな姿を見たときには、さらにうれしい気持ちになります。ボランティアをやっていてよかったなと思います。

答さん： すてきな姿というのは、どのような姿ですか。

寺田さん： 一人で下校する友達に声をかけている姿や、上級生が下級生の手を引いて歩いている姿などです。そんな姿を見ると、とてもうれしい気持ちになります。そんなふうに出ていただけで、私もうれしいです。

はじめは、見守りボランティアの仕事は大変なことばかりだと思っていましたが、全校のみんなに伝えたいです。ありがとうございました。

**【答さんの考え】**

学校ボランティアの中で、登下校でお世話をしている見守りボランティアの方は、毎朝早くから大変そう。どうして続けているのだろう。私の通学路に立ってくださっている寺田さんと山本さんにインタビューをして、お二人の思いを聞いてみよう。





イ. 第6学年 算数で通過することができなかった問題（2問/7問）

▶ 2つの式について、それぞれがどのようなことを表しているのかを選ぶ問題

3

辞典やファイルを、教室の後ろに並べようとしています。

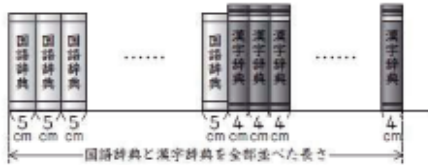


わかなさんの並べ方でも、あきらさんの並べ方でも、どちらも同じ長さになるはずですね。

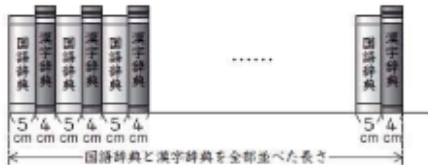
(1) わかなさんの学級では、国語辞典と漢字辞典を1人1冊ずつ使えるように、ロッカーの上に並べることにしました。そこで、並べる前に、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、どのくらいになるのかを考えています。国語辞典1冊の厚さは5cm、漢字辞典1冊の厚さは4cm、学級の人数は28人です。



国語辞典と漢字辞典に分けて並べたとして考えます。



1人分ずつ並べたとして考えることもできます。



【わかなさんの式】

$$5 \times 28 + 4 \times 28$$

【あきらさんの式】

$$(5 + 4) \times 28$$

わかなさんとあきらさんは、国語辞典と漢字辞典を全部並べた長さが、何cmになるのかを計算で求めようと考え、それぞれ自分の並べ方をもとにして、次のような式を書きました。

【わかなさんの式】の「 $5 \times 28$ 」と、【あきらさんの式】の「 $5 + 4$ 」は、何を表していますか。

下のア から エ までの中から1つずつ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 国語辞典28冊を並べた長さ
- イ 漢字辞典28冊を並べた長さ
- ウ 国語辞典1冊の厚さと漢字辞典1冊の厚さを合わせた長さ
- エ 国語辞典28冊と漢字辞典28冊を並べた長さ

【正 答】「 $5 \times 28$ 」ア、「 $5 + 4$ 」ウ

▶ 計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める問題

(2) けんたさんは、下の①と②の計算について考えています。

それぞれの計算の答えを書きましょう。

①  $(151 + 49) \times 3$

【正 答】①600 ②600

②  $151 \times 3 + 49 \times 3$

ウ. 第9学年 国語で通過することができなかった問題（3問/8問）

▶ 述べ方の工夫とその意図を説明したものととして適切なものを選択する問題

インタビューの様子

青野中学校の青野と申します。先日、インターネットで、星野さんの記事を見ました。今日は、星野さんの製品開発に対する思いについて、詳しくお聞きしたいと思います。よろしくお願ひします。

星野 ありがとうございます。

青野 早速ですが、星野さんは、製品開発に当たり「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」とおっしゃっていますが、そのように考えるのはどうしてですか。

星野 はい。お客様の安全を守るための配慮をするための配慮なのですが、それだけでは不十分で、お客様のニーズに合わせた多様なデザインや、年代を問わず手軽に扱える利便性が求められるからです。お客様向けのスマートフォン開発などからも、そういった声がかかります。例えば、電気ケトルは何かと開けられる可能性があるのですが、だからといって、開けにくい状態にすることを考えると、デザイン性が犠牲になってしまいます。私たちが開発している電気ケトルは、デザイン性に配慮しつつも、開けたときに熱気がこぼれにくい構造になっています。このように、安全性とデザイン性の両立を図っています。

青野 なるほど、いろいろなことを想定しながら開発されているんですね。

星野 そのとおりです。どの製品を開発するに当たっても、お客様のことを第一に考えます。製品を使用してくださるお客様の期待に応えるために、努力は惜しみません。

青野 お客様のことを大切にすることがありました。次の質問ですが、先ほど、電気ケトルの安全性とデザイン性の両立についてお話を伺いましたが、安全性と利便性の両立についても、具体的に教えてください。

星野 はい。利便性の両立という点では、手軽に使うことを重視するお客様も多くいらっしゃるのですが、電気ケトルの軽量化も求められています。しかし、軽量化のために構造を簡素化すると、手に触れる部分に熱気が伝わりやすくなってしまいます。安全性が損なわれることがありません。毎日、こうした課題の解決に励んでいます。

青野 問題を解決するために、星野さんはどのようにしてアイデアを生み出しているのでしょうか。私は美術科に所属しているのですが、よいアイデアが浮かばず、自分の制作で詰ってしまっていることがあります。

星野 よいアイデアはなかなか浮かばないものですね。そう言うときは、私は絵と話をたくさんしています。年代が離れた絵画をメンバーで話し合っている、一人だけ考えている、一人だけ考えていたアイデアが生まれてきます。自分とは異なる考えを生かすことは、学校でも職場でも大事なことではないでしょうか。絵から、そうすれば絵にも、勝手に上手に大切にしていることには驚かされます。

青野 自分の制作以外にも目を向けることです。一つのことにとらわれず、新たな発想を生かせる、様々な発想を人に広げていきたいと思います。

星野 とてもお話を聞きました。質問は以上です。

青野 ありがとうございました。

製品開発における思い

電気製品を開発するにあたって、最も大事にしているのは、安全性です。お子様からお年寄りまで、どの年代の方も安心して使用できる製品の開発を常に心がけています。しかし、安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたいと考えています。

現在、私は、電気ケトルの開発を担当しています。電気ケトルは、容量が小さく、使う分だけ加熱してお湯を沸かせるのが特徴で、弊社の製品の中でも御好評をいただいているものの一つです。安全性を徹底的に、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しいことですが、よりよい製品をお届けできるように努力を重ねています。

＜インタビューの目的＞  
星野さんの製品開発に対する思いを聞き、自分の考えの参考にします。

＜インタビューを通して知りたいこと＞  
・「安全性だけでなく、デザイン性や利便性も大事にしたい」と考えるのはどうしてか。  
・「安全性を徹底的に、デザイン性や利便性も兼ね備えた製品を開発するのは難しい」とあるが、具体的にどのような難しさがあるのか。  
・社会で働く上で何が大切だと思うか。

1 青野さんは、総合的な学習の時間、「社会で働く上で大切なことを学ぶ」という学習に取り組んでいます。インターネットで情報を集めていた青野さんは、電気製品を開発している星野さんの記事を読みました。会社を訪問して星野さんにインタビューをしました。次の「インタビューの目的」「インタビューの様子」を読み、あとの問いに答えてください。

【インタビューの目的】

【インタビューの様子】

〔正 答〕 2

- 三 「インタビュの様子」の「編集部」「課題を解決するために、星野さんはどのようにしてアイデアを生み出しているのですか。私は美術部に所属しているのですが、よいアイデアが浮かばず、作品の制作が滞ってしまっているのです。」について説明したものと最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 正しい情報を引き出すために、自分が事前に調査したこととの相違点を指摘しながら質問をしている。
  - 2 さらに聞きたい話を引き出すために、星野さんの発言に自分の体験を関連付けて質問をしている。
  - 3 一般的な考えを聞き出すために、これまでの具体的な事例についての話を整理して質問をしている。
  - 4 新たな意見を聞き出すために、星野さんとは異なる立場の意見を取り上げながら質問をしている。

▶ 「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く問題。



四 山田さんは、「判じ絵」の解説の面白さ」に「図3」としてもう一つ具体例を示して、解説の仕方を通明しようとしています。あなたなら、どのように書きますか。次の〈表〉のA、Bから一つ選び「ごちらの〈表〉を選んで読んでみてください。」「図3」は「」に続けて、「図3」の説明の仕方をお手本にして書きなさい。  
なお、読み返して文章を直したいときは、二筆線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

「判じ絵」について 山田 光一

- はじめに  
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。
- 調査方法  
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。
- 調査結果  
■「判じ絵」とは何か  
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解説して楽しむものである。  
(ア)ただし、【図1】のように、描かれているものと意味しているものが異なるため、解説するには、「判じる」ことが必要になる。(イ)言ってみれば、なぞなぞやクイズのようなものである。(ウ)また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ)そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ)さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。  
■「判じ絵」の解説の面白さ  
「判じ絵」の解説の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。  
【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解説すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図2】 スズメ

【図3】 は、

③ 山田さんは、国語の時間に、言葉に同じく興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。  
下書きの一部

〔正答例〕

【図3】真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解説すると、食事で使う「皿」という意味になる。

▶ 原文の中から語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す問題

4 石井さんは、国語の時間に、「竹取物語」を読みました。そのあと、学校図書館で、現代語で書かれた「竹取物語」を見付け、読み比べてみました。次は、『授業で読んだ「竹取物語」の一部』の『原文』とその『現代語訳』、『学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部』です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

『授業で読んだ「竹取物語」の一部』

〔原文〕  
今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつづ、よるつゝのことに使ひけり。若をば、さぬきの翁となむいひける。その竹の中に、もと多る竹なむ一本ありける。あやしがりて、嘗りて見るに、翁の中よりたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしくしてあたり。

〔現代語訳〕  
今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやつこといった。その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。不思議に思っ、近寄って見ると、翁の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。

『学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部』

〔見出し〕「竹取物語」による

〔見出し〕「竹取物語」による

二 『原文』の「……翁」と「……」に対応する言葉を、『現代語訳』と『学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部』からそれぞれ抜き出して記しなさい。

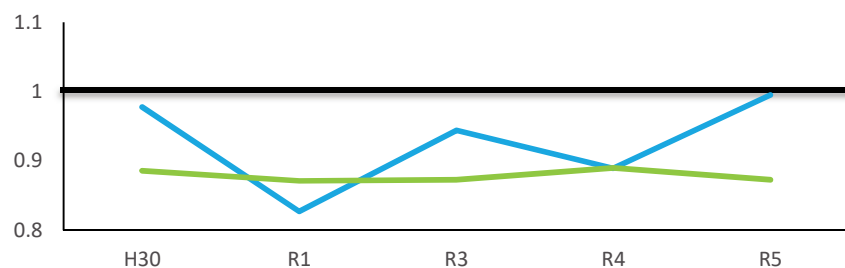
〔正 答〕  
〈現代語訳〉とても  
【学校図書館で見つけた「竹取物語」の一部】まことに

⑦児童・生徒質問紙における平均回答率の国との比較（経年）

※全国を1としたときの平均回答率を算出して比較

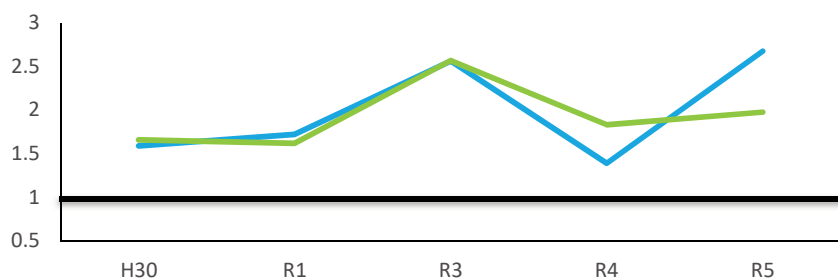
【 — ; 能勢町第6学年、 — ; 能勢町第9学年】

(1) 朝食を毎日食べる



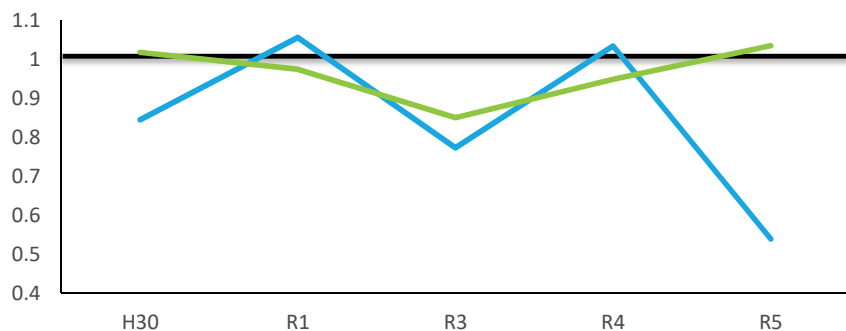
○令和4年度と比較して、第6学年において増加している。

(2) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分未満の勉強時間の割合



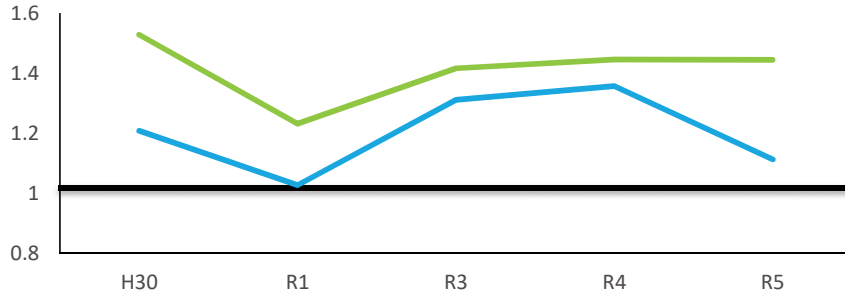
○第6学年・第9学年ともに、全国平均よりも高い。

(3) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。



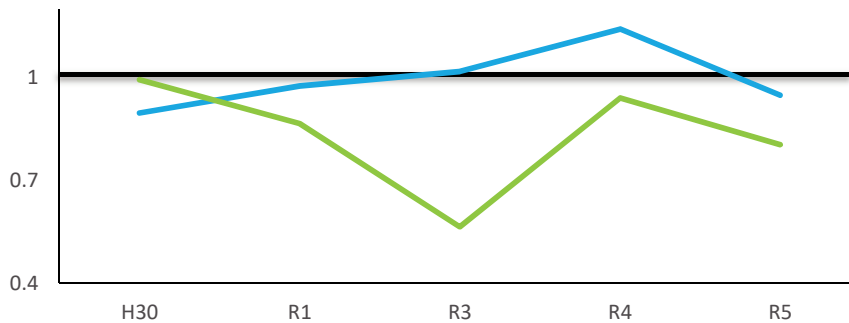
○第6学年においては、全国平均を大きく下回った。第9学年においては、全国平均並みに増加している。

(4) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



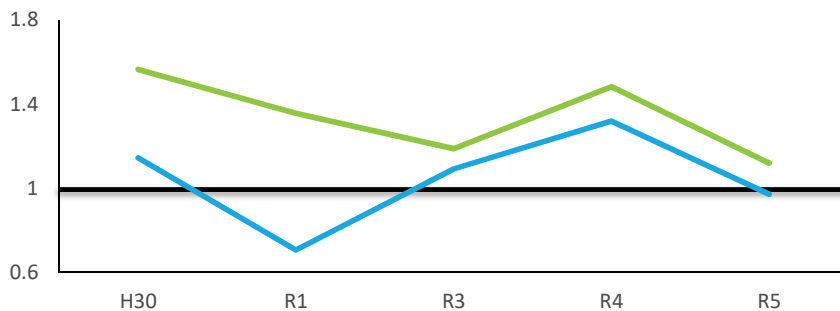
○第6学年・第9学年ともに、全国平均回答率より高い状態が続いている。

(5) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



○第6学年・9学年ともに全国平均回答率を下回った。

(6) 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の質問に対し、「まったく読まない」と答えた割合



○第6学年・第9学年ともに、昨年度と比較して、「まったく読まない」児童生徒は減少した。

## 8. まとめ

### 【教科に関する調査について】

今年度の本町の結果から見える課題と今後の指導の重点として2つのことを示す。

#### 課題① 基礎的な知識・技能の定着

昨年度から引き続きの課題である。特に、前期課程における基礎・基本の定着及び、教科別で見ると前期課程・後期課程ともに国語において基礎的な知識・技能の定着に課題が見られる。ただし、7⑥で記載した通過率を見ると、後期課程において数学及び英語で100%となり、昨年度の取組の成果が見られる。後期課程において、生活に関連付けて考えさせる場面を各教科及び各単元で計画的に設定したこと等の工夫により、『数学の勉強は好きですか』、『英語の勉強は好きですか』の質問において『よくあてはまる』と答えた生徒の割合が全国平均を上回っていることから、学習意欲の向上につながっており、そのことが基礎・基本の定着の伸びにつながったと考えられる。

一方、課題が見られる前期課程の国語・算数、後期課程の国語においては、それぞれの教科の好きかどうかを問われた質問項目で、いずれも全国平均を下回っている。上記の結果より、今年度も引き続き日常生活に関連付けて考えさせる場面を計画的に設定していき、さらに児童生徒が自分ごととして捉えられるような単元デザインを行い、基礎的な知識・技能の定着を目指していく必要がある。

このことに加え、『9. 学校による分析結果』にもあるように、生徒質問紙の結果から、全国と比較し、部活入部率、図書館の使用率は高く、学校以外（塾など含む）での学習時間で3時間以上は「0ポイント」であった。基礎・基本の定着を行うために、授業時間内で継続的に基本問題の練習を行い、その時間を捻出していくための授業改善が必要である。特に、基礎的・基本的な言葉等（漢字、特に同音異義語、主語と述語の関係等、基本的な文の構成）の習得及び定着に力を入れていく必要がある。

子どもたちの学習意欲の向上に重点を置き、下記の取組を推進していく。

#### 課題①に対する今後の指導の重点

- ◎日常生活に関連付けて考えさせる場面を計画的に設定し、児童生徒が自分ごととして捉えられるような単元デザインを行う。
- ◎授業時間内に継続的に基礎的・基本的な言葉等の基本問題の練習を組み込み、繰り返し復習を行う。



## 課題② 複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすること

『7. 調査結果概要』より、国語・算数（数学）・英語ともに『書くこと』の領域において課題が見られる。図表やグラフを用いて自分の考えを書き表したり、理由を説明したりする問題への課題が特に大きかった。話や文章の中心となる語や文を捉えることは比較的できているが、複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり書き表し方を工夫したりすることに課題が見える。

学習指導の改善・充実のポイントとしては、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討する活動を充実していく必要がある。また、書くことにおいて、書き表し方を工夫したり、読むことにおいて自分の考えをまとめたりする学習課題や学習活動の設定が大切であると考ええる。

例えば、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめるなどの学習活動の充実が重要であると考ええる。また、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめるような活動も大切であると考ええる。

図表やグラフを読み取る際には、①グラフの種類と特徴を確認、②何について表したグラフなのか、表題を確認、③縦軸や横軸は何を表しているのかの確認、④グラフから見える特徴の確認、というように、各教科の授業において、上記①～⑤のポイントを具体的に意識させていく。

上記の取組を充実させていくことで、課題となっている『書くこと』の向上を図っていく。

### 課題②に対する今後の指導の重点

- ◎複数の情報を比較・関連付けたりして検討する学習活動の充実
- ◎書き表し方を工夫したり、自分の考えをまとめたりする学習課題や学習活動の設定

## 【生活習慣や学習環境に関する質問紙調査】

昨年度に伸びが見られた家庭学習の時間において、前期課程及び後期課程で減少が見られた。『2時間以上家庭学習をしている』の項目では、前期課程・後期課程において全国平均より約10ポイント以上下回っており、『30分より少ない』と回答した児童・生徒は、前期課程・後期課程において約10ポイント上回っている。家庭学習の時間が、全体的に全国平均より前期課程及び後期課程で少なくなっていることを示している。また、『家で自分で計画を立てて勉強している』の項目の肯定的回答においては、後期課程では全国平均を上回っているが、前期課程では約20ポイント下回っている。

上記の結果より、前期課程及び後期課程において、家庭学習に課題があり、特に前期課程での課題が大きくなっている。【教科に関する調査について】でも述べたように、学校での基礎・基本の定着に向けた授業改善の推進はもちろんのことであるが、家庭学習においても手立てが必要である。児童生徒が興味を持って学習に取り組めるように、ICTでの基礎・基本の学習を積極的に取り入れ、家庭での学習時間の確保に取り組んでいきたい。

後期課程において『困りごとや不安がある時に先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか』の項目の強肯定が、全国平均を10ポイントほど上回っている。前期課程では、『学校に行くのは楽しいと思いますか』の項目の肯定的回答が、全国平均を5ポイントほど上回っており、集団づくりの観点で考えると成果が見られる。また、『将来の夢や目標を持っていますか』の項目の肯定的回答が、前期課程及び後期課程で全国平均を上回っている。前期課程・後期課程ともに、グローバル能勢の取組で地域の方から学んだり、豊中高校能勢分校との交流を積極的に行ったりしている活動が成果として表れていると考える。さらに後期課程では、昨年度より防災教育の取組を通して、地域の方と関わり、地域の方の思いを知ることによって、将来の自分のことを考えていくきっかけとしている。今後もキャリア教育について取組を継続し、将来の夢や希望を持った児童生徒を育てていく。

一方で、『いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか』という項目において、前期課程及び後期課程において、肯定的な回答が全国平均を下回り、昨年度よりも低くなっている。いじめはいけないものであるということについての認識を能勢ささゆり学園全体で高めるとともに、人権教育・キャリア教育を基盤とした活動に引き続き、注力していく必要がある。

### 今後の指導の重点

- ◎学校と家庭の連携の強化（ICTの積極的な活用）
- ◎人権教育・キャリア教育の充実





●平均正答率と無解答率の状況（％）

	平均正答率	無解答率
能勢町	41.5	12.2
大阪府	53.1	8.9
全 国	56.2	8.5

課題解決に向けて（具体的な指導方法）

- 資料を読んで、自分自身の考えをまとめる機会をつくる。
- 考えをまとめるときに文字数やキーワードを入れ込むなど、条件を加えて、書く機会をつくる。

② 学年の傾向

- 選択問題は無回答率が低いが、記述問題になると無回答率が国・府より高くなる傾向がある。
- 特に漢字を書く問題や自分自身の考えを書く問題は無回答が多く、正答率も低い。

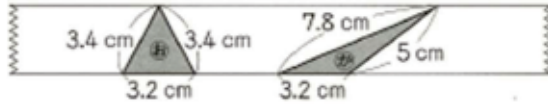
③ 課題・傾向を受けての改善策

- 漢字については、くりかえし学習し、授業でも積極的に漢字を使っていく。
- 資料を読んで、自分自身の考えをまとめる機会をこれまでより多くつくる。
- 考えをまとめるときに文字数やキーワードを入れ込むなど、条件を加えて、書く機会をつくる。

## 《6年生・算 数》

### ① 最も課題のある問題

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊦と㊧の2つの三角形をつくります。



上の㊦と㊧の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊦の面積のほうが大きい。
- 2 ㊧の面積のほうが大きい。
- 3 ㊦と㊧の面積は等しい。
- 4 ㊦と㊧の面積は、このままでは比べることができない。

〔正 答〕 3

### ●平均正答率と無解答率の状況（％）

	平均正答率	無解答率
能勢町	2.4	0.0
大阪府	20.5	3.6
全 国	20.8	4.0

### 課題解決に向けて（具体的な指導方法）

- 三角形の性質が理解できていない。図形での学習の際、前年度まで既習した学習内容をふり返りながら、理解の定着を促す。
- 多くの情報に惑わされ、間違った記入をしている。単元終わりなどに思考問題に取り組む機会を設け、正しく読み取れる力を養う。

### ② 学年の傾向

- 正答率が高い問題と低い問題の差が激しい。
- 比例等、ともなって変わる問題の正答率が高い。
- 図形の問題に苦手意識がある。

### ③ 課題・傾向を受けての改善策

- 習熟度別にクラスを二つに分けたり、学年を三つに分けたりし、子どもの実態に合わせて学習を進め、基礎基本を大切にしていく。
- 学習の折に触れ単元に関する復習の時間を設ける。
- 朝学習や単元の終盤に学習の定着を図るために、E ライブラリやプリントなどに取り組む。

## 《9年生・国 語》

### ① 課題のある問題

- 四 二 ※原文の中から語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す問題  
(7.調査結果概要、⑥通過率(%)の状況に記載)

### ●平均正答率と無解答率の状況(%)

	平均正答率	無解答率
能勢町	66.7	8.8
大阪府	71.4	5.8
全 国	74.1	4.8

#### 上記の問題からどのような課題が見られたか

「いと」の現代語訳を、適切に資料から抜き出す手順を踏むことに課題が見られる。また、問題の全体像を踏まえての解答時間の配分に課題がある。

### ② 学年の傾向・課題

問題文を読み切らず、途中で読み飛ばし、自身の都合よく解釈し解答してしまう傾向がある。定期テスト等でも、筆者の主張として正しく「ない」ものを選びなさい、などの問題も読み違えて解答することがある。今回の調査問題でも、「いと」だから、「とても」と訳す等、直感的に解釈してしまった生徒やそこまで読み込む時間がなかった生徒がいたと想定される。

### ③ 課題・傾向を受けての改善策

本文の要旨をまとめたり、筆者の主張にあたる部分に書きこみを入れたりする活動を進める際に、制限時間で仕上げることを意識させる。その際、この時間でここまでではできるようになってほしいというラインを複数設定し、全てクリアまではいかずとも、一人ひとりの生徒が主体的に課題に向かっていく姿勢を高める。時間内に仕上げる意識を基として、問題文を読み込み、適切に解答に向かうことの素地を作る。

## 《9年生・数 学》

### ① 最も課題のある問題

7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日<sup>もみぢび</sup>といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。

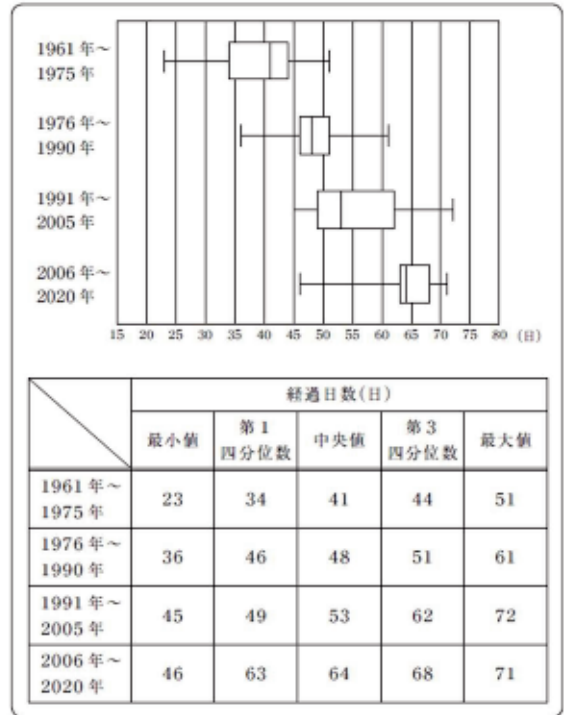
そして、二人は次のような表にまとめました。

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

黄葉日までの経過日数の分布



次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。

〔正 答〕 10

### ●平均正答率と無解答率の状況(%)

	平均正答率	無解答率
能勢町	56.9	13.7
大阪府	63.0	6.8
全 国	65.7	5.6

#### 上記の問題からどのような課題が見られたか

国・府と比較して差の最も大きかった問題である。内容的には『知識・技能』の問題であり、単純にひき算をするのみの問いである。ポイントに差がでた原因として考えられるのは、3年間を通して、その範囲以外では使われない内容であり、短期的な定着はしていても、長期的な定着になっていないことが考えられる。

## ② 学年の傾向・課題

国・府のポイントを見て、低い項目（説明関係）に関しては本校の生徒のポイントの差が小さく（上回っているものもある）、逆に、国・府で高い項目（知識・技能）については、本校の生徒のポイントは下回っているものが多い。このことから傾向としては、説明関係が解けている30%ぐらいの生徒の理解度は高く、その生徒は知識・技能の問いも解けていて、国・府と差がついている要因は、中間層の知識・技能の定着不足と考えられる。

## ③ 課題・傾向を受けての改善策

①にも記述したように、『長期的な定着』が大きな課題であり、生徒質問紙の結果から、全国と比較し、部活入部率、図書館の使用率は高く、学校以外（塾など含む）での学習時間で3時間以上は「0ポイント」と、学校での活動のウエイトが全国・府と比較して大きい。本校の取り組みとして、『思考』系にウエイトを置いてきた結果として、『説明関係』のポイントは上回っているので、授業の進め方で大きなシフトチェンジは不要と考えられる。課題の『家庭学習』への取り組みは長年行っているものの、大きく数値が変わることはない。学校での学習のウエイトが大きく、家庭学習の時間は短いとなると、いかに限られた時間の中での基本の定着を行うかがポイントである。教科として『長期的な定着』、『基本の定着』をクリアするには、授業時間内で毎日継続的に基本問題の練習を行う必要があると考えられる。そのためには、授業時間の捻出が必要であり、より授業をスマートにする必要がある。

《9年生・英語》

① 課題のある問題（2問）

- 6 次の英文は、友達のアレックス（Alex）があなたに送ったメールです。メールを読んで、アレックスにおすすめのイベントとして最も適切なものを、右の1から4までの中から1つ選びなさい。



**1 Rugby Game**

Let's watch together!

**Date & Time**  
Saturday, April 15  
9:30 a.m. - 11:30 a.m.

**Place**  
Midori Park

**2 Flower Market**

You can buy beautiful flowers!

**Date & Time**  
Saturday, April 15  
9:00 a.m. - 4:00 p.m.

**Place**  
Hikari Garden

**3 City Orchestra**

You can enjoy a wonderful performance!

**Date & Time**  
Sunday, April 16  
1:00 p.m. - 3:00 p.m.

**Place**  
Tsubomi Hall

**4 "Cook & Eat"**

Let's enjoy cooking and eating!

**Date & Time**  
Sunday, April 16  
4:00 p.m. - 7:00 p.m.

**Place**  
Cooking Room "Wakaba"

(注) Market: マーケット Orchestra: オーケストラ

〔正 答〕 3

- 10 あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開発しています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

〔正答例〕 Our school has a school festival in October. In the festival, we have a chorus contest and we practice hard to win the gold prize. Many people come to listen to our songs.

●平均正答率と無解答率の状況（％）

6	平均正答率	無解答率
能勢町	25.5	0.0
大阪府	35.5	0.3
全 国	35.9	0.3

10	平均正答率	無解答率
能勢町	7.8	23.5
大阪府	8.3	24.3
全 国	7.4	21.4

上記の問題からどのような課題が見られたか

6については、語句、表現共に、教科書と同程度の難易度で、英語を苦手とする生徒も比較的読みやすい本文で、英文を上から順に読んでいけば、その条件にあてはまる選択肢を順に絞ることができる解きやすい問題であるが、正答率が国・府よりも約10%下回っており、他の問題よりも差が大きい。10については、学校生活など身近なテーマで、授業でも取り組んだことがある題材であるが、無解答率が高い。



## ② 学年の傾向・課題

ほぼ国・府と同じ傾向のグラフであるが、書く問題での無解答率が高くなっている。問い⑥では、解答類型から、英文を最後まで確認せず、「4p.m」という語句だけで安易に『4』を選んだと考えられる。正確に情報を得るための読解練習が必要である。問い⑩では、学校行事など学校生活をテーマにした表現活動には、授業でとりこんでいるので、使える表現は知っていたと思われるが、「他者に紹介する文」と条件がつくだけで、既習の表現を適切に使えない。正しいスペルで書けないなど、授業でみられる傾向と同じである。

## ③ 課題・傾向を受けての改善策

基本語句、基本表現が定着できるように毎時間、反復練習を継続的にこなす。3年間継続できる定着方法を考案していきたい。また、即興での表現活動については継続していく。複数の情報を整理して自分の考えをまとめたりする問題に対応できず、知っている表現でも応用して使えなかったり、問題の解き方がわかっていなかったりする場合があるので、プリントや定期テストで慣れさせていく。



## 10. 学校による児童生徒質問紙分析

【児童生徒質問紙】・・・今年度の能勢ささゆり学園における重点的な取組に係る質問事項

### ○質問1

学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。

### ○割合（あてはまると答えた割合）

前期課程	【 21.4 】%	後期課程	【 43.1 】%
大阪府	【 36.9 】%	大阪府	【 32.3 】%
全国	【 38.6 】%	全国	【 34.3 】%

### ○分析・今後の方向性

9年生の数値が国・府よりも上回っており、授業の中で学習の主体を子どもに移し、表現する場面を多く設けている成果ではないかと捉えている。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」という項目も強肯定の値が上回っていることを踏まえると、集団の中で他者とやり取りする中で気づいたり、学んだりしている状況が見て取れる。その成果が数学の成績の向上にもつながっていると考える。一方で6年生では、国・府より下回っており、「どちらかといえばあてはまる」の数値を合わせても下回っている。目的を明確にした話し合い活動の充実が必要である。

### ○質問2

これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

### ○割合（あてはまると答えた割合）

前期課程	【 16.7 】%	後期課程	【 33.3 】%
大阪府	【 29.8 】%	大阪府	【 30.6 】%
全国	【 30.5 】%	全国	【 30.4 】%

### ○分析・今後の方向性

前期課程で国・府を下回っているが、後期課程では国・府を上回った。一つの要因としては、昨年度、国語科を中心に探究活動を取り入れていることをはじめ、様々な教科で子ども主体の活動を行っている。前期課程でもそういった場面を設けているが、後期課程では、そういった活動を「探究」や「課題解決」と銘打ち、生徒にも意識させたことが高い数値につながったと考える。前期課程では「課題の解決」という活動そのもののイメージが、該当する活動と結びついていないのではないかと考える。

### ○質問3

自分にはよいところがあると思いますか。

#### ○割合（あてはまると答えた割合）

前期課程	【 23.8 】%	後期課程	【 33.3 】%
大阪府	【 43.8 】%	大阪府	【 36.1 】%
全国	【 42.6 】%	全国	【 37.2 】%

#### ○分析・今後の方向性

本校の研究としては、知的な側面と人間関係的な側面とで自尊感情のあり方を分けて考えているところから、学力調査に紐づいた質問紙での回答は、知的な側面での判断に多少偏るのではないかと考えている。本校の研究内容が集団づくりを基盤としていることから、知的な自尊感情の高まりに影響が出始めるのはもう少し先なのかもしれないとも感じている。そのため、今、意欲的にとりこんでいることや、自分の考えをまとめて発表している姿などに対して、しっかりと見取り、評価していくことで、子どもたちの自信につなげたい。